九条の会・いすみ市

会　報　第２０号
発行日　２０２０年　８月　２２日
発　行　九条の会・いすみ市
　　運営委員会

コロナ禍での安倍改憲の野望を阻止しよう！

安倍首相はコロナ禍でも改憲を訴え続けています。今一度危険なその内容を次の資料で確認しましょう。
以下の資料を入手しました。会員全員に配付します。
「自民党改憲案の問題点と危険性」改憲問題対策法律家６団体連絡会ブックレット
戦争を考えるこの時季、様々な行事を見聞きしての、またご自身の感想・ご意見をお寄せください。（５００字以内）今後の会報に掲載したいと考えています。

九条の会・いすみ市　運営委員会

コロナ禍、全国の感染者は連日１５００人を超え、麻生氏は選挙に向け１０００人規模の政治パーティーをやっている。

森友問題で「私や妻が係わっていたら首相も議員も辞める」と安倍氏は言った。ここから始まる忖度合戦、佐川氏からの指示強要により、近畿財務局公文書改竄に加担せざる得なかった職員の赤木さんは理不尽な要求に苦しめられ罪悪感と失意のあまり自殺、妻の雅子さんは裁判に訴えることで同じように今も苦しんでいる人を救いたい、夫の無念を晴らしたいと裁判に訴えることを決意、先日、第一回の裁判が開始された。

５０年前、ロッキード社、３億円ワイロで田中角栄氏逮捕事件を思い出す。首相危うし保身策、検察庁法を解釈変更してまで定年延長させたかった黒川氏、賭けマージャンでオジャンとなった、大爆笑もの。

閣僚辞任、安倍内閣なんと１４人目。直近では河井克行法務大臣、妻、河井安里の国政出陣で自民党本部から１億５千万（政党助成金を含む）のうち約２９００万円を地元議員１００人に配った。これこそ角栄時代の金権選挙と同じ。

派閥が同じ選挙区で競うので中選挙区制は金が掛かりすぎる、一区一人の小選挙区制にしようと当時の自民党は社会党村山党首を総理に祭り上げ、自社政権が小選挙区制を導入してしまった。そのことで後に社会党の大没落となる。

僅か２０％位でも過半数の議席が取れてしまう。党首に反発したら立候補もできない、首相忖度、官邸主導、安倍一強だ。小選挙区制の弊害が安倍政権を存続させてきたのは明らかである。

中国では尖閣、北朝鮮ではミサイルの恐怖心を煽って、だから自衛隊を九条に書き込むと、改憲を今だに諦めない安倍氏の恐ろしいまでの執念。７月９日、ステルス戦闘機１機２３６億円を１０５機、合計２・５兆円、アメリカから爆買いを決めてしまった安倍氏にはコロナ禍に苦しむ国民を救済する気はあるのでしょうか。

九条の会の私たちは言いたい！
安倍氏よ「国民を舐めるな！　憲法を変えるな！」

和久　伸一

緊急事態宣言解除後、東京都や大阪府では日を追うごとに感染者数拡大、また九州では豪雨災害で多くの犠牲者が出てしまいました。そんな渦中に安倍政権はＧｏＴｏキャンペーンを打ち出し、自粛要請をするならば補償ありき、ＰＣＲ検査の緊急拡大を望む国民の声は今や圧倒的に、ＳＮＳでは「＃ＧｏＴｏキャンペーンを中止してください」の投稿が拡散されました。

安倍政権はこの問題でも二転三転し国民を混乱させているとの声も多く聞かれました。受託団体が自民党、二階幹事長らに４２００万円の政治献金をした問題が発覚、また利権政治が露になりました。

沖縄始め在日米軍基地でのコロナ感染急増には情報が明かされないなどの治外法権ではないかと思える問題も浮き彫りになりました。

コロナ禍で国民が苦難の中で耐えているというのに、肝心な時に安倍首相は雲隠れ、約５０日ぶりにやっと記者会見を開くも、野党の臨時国会召集要求に応じない。広島平和祈念式で挨拶をしても核兵器禁止条約批准せず、被爆国の首相として羞恥心はないのかと思いました。

また、安倍首相はコロナ禍の混乱に乗じてなんと改憲を打ち出しています。私たちは到底許すことはできません。今やるべきことは改憲などでは無いことは明らかです。廃業や倒産の危機にある人を救い、感染防止策を徹底し、災害被災地と被災者を救済することを何より全力でやるべきです。

秋田県・山口県で「イージス・アショア」の配備を断念させたことは画期的なことでした。反対行動を継続してきた住民の勝利、国策にも理不尽なことには臆することなく声をあげることがいかに重要か教えられました。

私たち九条の会・いすみ市でも特集号でこの問題を提起してきたことは意義深く良かったと思います。

私たちは、諦めないでいきましょう！

川島　る美

会員よりご意見を お寄せいただきました

私が憲法９条を深く心に刻んだのは、数十年前の我が子が誕生したときです。

それまで私の心は『ゆるーく』平和について考えていただけでした。我が子をはじめて抱いた時「この子を戦争に行かせてはならない。この国を戦争する国にしてはならない」その思いが突きあがってきました。「でも、日本には憲法９条がある。永久に戦争放棄と書いてあるし、大丈夫かも」という思いも心の片隅に長くあったことも否めません。その後、改憲の動きはひたひたと近づいてきて私の心も変化してきました。ＰＫＯ法案、安保法制等々、憲法９条を勝手に解釈し違憲なことも数の力で成立してきている政府をみて、大丈夫なんかじゃないんだと痛切に思うようになりました。

そして今、安倍首相はそれらを既成事実として憲法９条の中に自衛隊明記を成し遂げようとしています。あろうことかこのコロナ禍さえ、改憲の道具のひとつとして考えているのです。自分の任期中に改憲の発議をどうしてもしたい安倍首相にもう『ゆるーく』なんかしていられません。
子や孫たちに戦争に通じる道の、負の遺産を残してならないと強く思います。

菊地　千代美

学習会

９月１９日（土）１０月２４（土）
１１月２１日（土）
時間　１０時から１２時
場所　大原文化センター

＊「自民党改憲案の問題点と危険性」
改憲問題対策法律家６団体連絡会ブックレット
学習会でも確認しながら活用しています。
基本資料憲法条文などお持ちください。

＊前回よりお茶をなくして資料代１００円に変更しました。

８月に思う

この暑さの中で７５年前原爆の被害にあった人たちがいた。７５年前の８月１５日までにどれだけの人々が第２次世界大戦でなくなったのか。敗戦が目に見えたとき、もっと早く降伏していれば死なずにいた人々がいた。父母が生き延び私は生まれた。

２００４年６月１０日呼びかけられた九条の会アピールは（全文を読み直し確認ください）
『「ヒロシマ・ナガサキの原爆にいたる残虐な兵器によって、五千万を超える人命を奪った第二次世界大戦。この戦争から、世界の市民は、国際紛争の解決のためであっても、武力を使うことを選択肢にすべきではないという教訓を導きだしました。」‥
「日本国憲法が実現しようとしてきた、武力によらない紛争解決をめざす国の在り方を根本的に転換し、軍事優先の国家へ向かう道を‥私たちは許すことが出来ません。」‥
「この国の主権者である国民一人ひとりが、九条を持つ日本国憲法を、自分のものとして選び直し、日々行使していくことが必要です。それは、国の未来の在り方に対する、主権者の責任です。日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、「改憲」のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、いますぐ始めることを訴えます。」』ということでした。

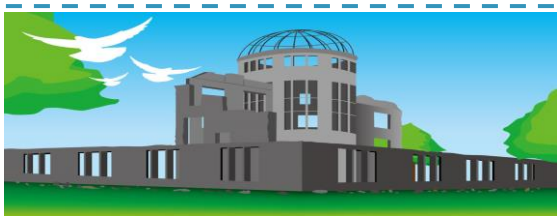
朝鮮・中国・ロシア・アメリカの軍拡競争に日本は遅れまいと軍拡を推進していく。限りない軍拡競争は情報戦からすると効果があるかないかが直ぐに問われます。それへの有効な回答は負ける前に勝つ。やられる前にやるということでした。侵略のために動員された戦士・資産、無限の戦費が使われ勝つまでは、と国民の生活は逼迫したのでした。
解決策と考えられた目先の勝利のため戦線を拡大して第一次・第二次世界大戦となりました。その反省から、国際連盟、国際連合がつくられて、日本国憲法は創られたのです。

どうしても政府の行為によって戦争を再びさせてはいけない。
戦争は何をもたらしてきたのか、この時季に様々な体験などを学びたいと思います。

８月６日記　　近藤

ほっとタイム

医師で作家の
鎌田實さんの紙芝居
『かまた先生のアリとキリギリス』に込めたメッセージ。
お腹を減らしたキリギリスにアリは「僕の家においでよ」と声をかけます。
新自由主義による過激な競争が格差と貧困を広げ、地球を痛めつけて…
立場の違う者同士、違う価値観で生きる人を決めつけず寛容であることの大切さを説いています。

編集後記　・　R.Kawashima

長崎原爆の日８月９日に、セントクリストファー・ネイビスが新たに核兵器禁止条約を批准し、批准国数４４、条約発効まであと６か国となりました。